

## 《林業相談室からの報告》

### ～紅花のエゾムラサキツツジの増やし方～

泉 征三郎

当場に寄せられた道民の方々からの林業相談件数は、昭和60年度の実績で約800件にのほりました。相談の方法は電話相談が59%、来場相談が36%で、その外は文書による相談です。

遠隔地からの電話相談では、止むをえない場合が多いのですが、動植物やキノコ類の同定、さらには虫獣害や樹病の鑑定などの電話相談では回答につまることがあります。

質問者が表現しようとしている事物の特徴を会話の中からとらえるのは大変難しく、そのため正確を期し得ないこともあります。

「百聞は一見に如かず」の格言があるように、鑑定や同定を必要とするときにはできるだけ標本を送っていただきたいものです。

質問の内容では林業に関するもののほか、最も多いのは緑化樹についての相談で、その中でも圧倒的に相談件数の多いのが庭園樹の被害とその対策についてです。また樹種別ではイチイについての相談が多いのが特徴です。これは、道内の庭園樹にはイチイが多く用いられているからかもしれません。

緑化樹に関する質問とその解答は、樹種が豊富なこと、生育環境や植栽目的が異なることなどから多岐にわたります。例えば増殖法や仕立て方も樹種ごとに異なり、産地や育成地によっても微妙な違いがあらわれます。また病虫害も自然環境の中だけではないので千差万別ですし、都市近郊の造成地などでは土壌環境や大気汚染などによる複合被害もみられるようです。

また、年間を通じて林業相談を受けていると、その季節おりおりに道内各地の樹木や森林にどんな害虫が発生し始めたのか？どこの地域にどんな樹木の開花が見られたのかなど、地域の自然の営みや珍しい事例も伝わってきます。

最近寄せられた緑化樹に関する相談の中から興味深いものをひとつ紹介してみましよう。質問者は音更町のMさんの相談で、「エゾムラサキツツジを実生増殖していたところ、この中に真紅の花をもつ個体が出現した。これを大量に増殖するよい方法はないだろうか？」という質問でした。

Mさんの話では、栽培中に紅花の変異個体が出現したとのことですが、このような変異個体は一般に生命力の弱いものが多く、増殖がうまくゆかないのが普通です。Mさんの真紅の花をもつエゾムラサキツツジも例外ではなさそうです。かといって実生では、同じ花が咲くことはほとんど期待できません。つまり品種の固定にはたいへん長い期間がかかります。そこで、この貴重な原種を何とかして増やし、数本でも母樹を確保しておきたいものです。最近話題のバイオテクノロジーの応用による組織培養技術が進歩すれば、何なく解決する時期がくるかもしれませんが、このような研究は現在とり組み中であり、技術移転までにはもう少し時間をいただかなければなりません。

そこで現在のところ、この種の質問のような変異個体の増殖にあたっては、さし木、とり木、株分けによる無性繁殖をすすめております。これらの樹種別の増殖技術については、光珠内季報No.48、50、51の緑化樹木の苗木養成法(1)~(3)に紹介しておりますので参考して下さい。ここでエゾムラサキツツジを例に密閉法によるさし木の要点をまとめてみましょう。

- (1) エゾムラサキツツジのさし木は比較的難しく、発根率は一般に15%程度である。
- (2) 発根率をたかめるため、さし木は密閉法とし、市販の発根剤を用いる。
- (3) 夏の緑ざしは管理がむずかしいので、翌年に休眠枝ざしを行う。
- (4) さし穂は吸水面を大きくするため切り返しを行う。
- (5) さし床の用土は雑菌の少ない土（例えば鹿沼土）を用いる。この時、鹿沼土とピートモス（または水苔）を6：4に混合しても良い。鹿沼土は2ミリ目のふるいにかかけ微粉をとる。なお用土は熱湯処理して使用する。

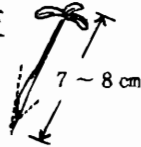
Mさんの例のように花の変異個体の増殖、および実生繁殖の難しい樹種については、当面上記のような点を考慮して密閉ざしによる増殖を試みてはどうでしょうか。密閉法を用いるとビニール内の湿度を高く保つことができ、温度が通常法より上がるため、さし木が成功する場合があります。

紅花のエゾムラサキツツジが園芸市にでまわる日を待ち望んでおります。

# エゾムラサキツツジの密閉さし

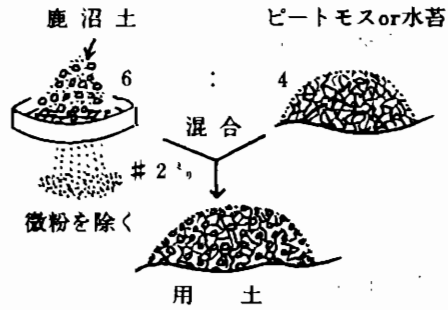
## ① さし穂のつくり方

さし穂の切り口は乾燥しないよう注意する。

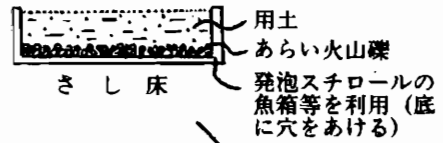


吸水面を大きくするため切り返しをつける。

## ② さし床とさしつけ

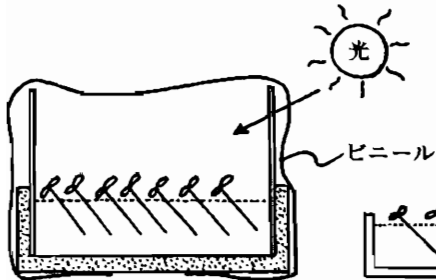


熱湯処理



散水して床を安定させ案内棒で穴をあけながら穂をさしつける。

## ③ さし床(密閉法)の管理



室内の日当たりの良いところで管理(発根は15℃以上の地温が必要)

1/2-3/4は用土の中に入るようにさし、もう一度水をかけ床を安定させる。

(主任林業専門技術員)